

# 教育最前線

連載 17

●熊本県交通安全講習員・電動車いす研修

## 様々な走行状況を体験してもらいながら、電動車いすの指導法を伝える

### 「電動車いす研修」の内容

#### 1 講話

用意されたテキストに沿って、電動車いすの基本を丹念に解説。いちばん時間が割かれたのは、事故事例（イラスト）を用いた危険回避方法の説明。インストラクターは、「電動車いすは被害者だけでなく、歩道では加害者となる危険もある」と指摘し、その点もきちんと伝えるよう指導した。



#### 2 実技（基本編）



講習員はペアを組み、指導者と受講者のロールプレイをしながら、すべての実技メニューを消化。インストラクターは、各ペアの会話に耳を傾け、「ただ『気をつけて』ではなく、何を、どのように気をつけるべきか、具体的に伝えて下さい」と、指導法について細かくアドバイスした。

##### ●障害物通過の体験

段差などの障害物や、起伏のある道の走行も体験。とくに危険と思われる場面では、インストラクターがデモンストレーションを行い、何がどう危険かを具体的に解説した。



#### 3 実技（応用編）



応用編の実技では、より現実の道路に近い環境での走行を指導。道路の横断では、斜め横断すると、まっすぐ横断するの比喩、どれだけ時間がかかるかを、実際に走行して確認するなど、さまざまなケースを体験してもらう。実際に利用者を指導する際には、「自分ですべて解説せず、相手に質問を投げかけ、考えてもらうようにしましょう」と、指導法がアドバイスされた。

##### ●建物のなかでの危険も確認

最後に、建物のなかで、自動ドアやエレベーター、建物入口のスロープでの危険も確認。インストラクターは、「とくに建物内では、まわりの援助が大切になる」と指摘し、介護者がいる場合の位置取りも指導した。



3月12日と16日、交通安全教育センターレインボー熊本において、熊本県内で交通安全活動を行っている交通安全講習員（以下、講習員）を対象とした、電動車いすの指導者研修が行われた。電動車いすの利用は近年、都市部から農村部まで広がっている。しかし、講習員も実際の走行体験をもたない人が多く、熊本県でも指導者養成のニーズが高まっていた。



### 電動車いすの基本を学ぶ

#### ポイント①

まずは座学からスタート。車両構造や道路交通法上の位置づけ、正しい操作方法など、電動車いすの基礎知識を学んだ。また、電動車いすの事故が、全国で年間200件以上発生している事故実態にふれ、インストラクターが事故事例（イラスト）を見せながら、「道路横断中」「歩道走行中」「坂道」などの危険回避の方法を説明した。



インストラクターが高齢者にわかりやすい説明の仕方などを講習員に伝えた

そこで、講習員が自ら正しい基本操作を身につけ、利用者への指導法を学ぶために、県内初で本格的な研修会を実施。当日はホンダのインストラクターが指導にあたり、県内各地区から集まった10人の講習員が、電動車いすの知識と基本操作、指導法を学んだ。

### ロールプレイで指導のポイントをつかむ

#### ポイント②

さらには、「相手を高齢者呼びわたりしない」「説明はゆつくり、わかりやすい表現で」といった、説明する際の注意点もアドバイス。さらにインストラクターは、「一方的に教えず、常に利用者の立場に立って、一緒に物事を考える姿勢が大切です」と、高齢者指導の心構えを語った。

次は実技の基本編。講習員は電動車いすを操作しながら、乗車前点検、発進・停止、旋回、障害物の迂回法などを学んだ。ここでは、講習員同士がペアになり、指導者役と受講者役のロールプレイを行いながら、進められる。例えば乗車前点検でも、交互にパートナーの点検状況をチェックし、間違ったらその場で指摘。正しい方法をわかりやすく、相手が納得できるまで指導する訓練が行われた。

### 危険な状況を安全に体験してもらおう

#### ポイント③

も、きちんと指導するには別のスキルがいることが、よくわかった」といった声が聞かれた。

午後からは、実技の応用編。道路環境を模したコース走行や、道路横断などの訓練が繰り返された。また、急な坂道や、見通しの悪い交差点の通過など、危険がともなう場所（状況）の走行も体験。さらに指導者の立場として、何が危険か身をもって知ってもらうために、あえて段差を高速で通過したり、車両が自然に後退しがちな坂道発進も体験するという課題も組み込まれた。

研修終了後、参加した講習員は「どのような状況が危険か、よくわかった。これで自分が指導する時、自信をもって説明できる」「今回の研修は、全体的にたいへん参考になった。最近では電動車いすの利用者が増えているので、きちんと指導していきたい」と抱負を語った。



## 読者の声

### ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！ SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。

[sj-mail@spirit.honda.co.jp](mailto:sj-mail@spirit.honda.co.jp)

本紙では、2月に一部読者の皆さまに読者アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。今回は、いただいたご意見の一部をご紹介します。 SJ編集部では、皆様からいただいたご意見を参考に、今後もより良い紙面作りに努めてまいります。

- クルマをつくる会社として、具体的にどういった交通安全活動の取組みをしているのか興味があります。今後もホンダとしていかに活動するかという点に注目していきたいと思っています。（30代・女性）
- 指導する立場からの意見や記事が多いですが、指導された人の感想等、指導される立場の意見も増やしてほしい。（20代・男性）
- 世の生活とどのようにリンクしているか、話を広げて展開してほしい。（40代・男性）
- 写真入りで理解しやすい。全体に表現がほしい。生活に密着した話題も掲載していただきたい。（60代・男性）
- 今後も学校現場（対生徒）に役立つ、自動車安全教育の記事を提供していただきたいと願っています。（50代・男性）
- 教育最前線、各社各部署の取組みが非常に参考になっています。（60代・男性）
- 交通事故に関する分析記事など統計に表れないデータ掲載をお願いします。（50代・女性）

### 【お知らせ】

4月1日付、本田技研工業（株）安全運転普及本部部長に大山龍寛（常務取締役）が就任。

前任者同様、より豊かなモビリティ社会の実現に向け、なお一層邁進いたします。今後ともよろしくお申し込み申し上げます。